

令和4年度第1回 旭川市総合戦略検討懇談会 議事録

日時 令和4年9月2日（金） 午後6時00分から午後7時50分まで

場所 旭川市議会棟第2委員会室

出席者

参加者

（50音順）

赤松 昌輝氏 ， 荒山 恭一氏 ， 市川 陽一氏 ， 井上 和広氏，

小原 隆氏 ， 柏葉 健一氏 ， 工藤 直志氏 ， 黒川 伸一氏，

種田 仁郎氏 ， 長尾 英次氏 ， 西 康子氏 ， 平松 慎氏，

福屋 聖恵氏 ， 水上 崇氏

オブザーバー

財務省北海道財務局旭川財務所長 吉沢 貢氏

北海道開発局旭川開発建設部地域振興対策室長 河門前 勝己氏

国土交通省北海道運輸局旭川運輸支局首席運輸企画専門官 加茂 聖和氏

農林水産省北海道農政事務所地方参事官 森岡 哲夫氏

北海道上川総合振興局地方創生部長 片岡 英善氏

事務局

総合政策部長 熊谷 好規

政策調整課長 北嶋 一雅

政策調整課長補佐 松山 育誠

政策調整課主査 石田 直紀

政策調整課主査 丸山あゆみ

会議の公開・非公開

公開

傍聴者の数 0名

会議資料

資料 1 地方創生の概要について

資料 2-1 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る数値目標等の状況について

2-2 【第2期】旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る重要業績評価
指標（KPI）一覧

2-3 令和3年度 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る施策評価表
（案）

資料 3-1 地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告，検証について

3-2 地方創生関連交付金事業に係る事業実施結果報告（案）

3-3 企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告（案）

参考資料 令和3年度旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業一覧
旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】
旭川市人口ビジョン【改訂版】

会議次第

1 開 会

2 議 題

(1) 地方創生の概要について

(2) 第2期総合戦略の数値目標及びKPIの報告，検証について

(3) 地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告，検証について

3 閉 会

1. 開会

2. 議題

(1) 地方創生の概要について

(事務局)

資料1に基づいて説明

(進行役)

今、事務局から地方創生の概要について説明がありました。質問・御意見等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

私の方から1点よろしいでしょうか。資料1の上段1番目のデジタル田園都市国家構想についてですが、次回の会議から、こちらの方に移っているということでしょうか。

(事務局)

現在、国で示しているように、年内にデジタル田園都市国家構想総合戦略が策定されている前提で説明させていただきますと、国の戦略を基に骨子を策定する予定であります。この案をこの懇談会に諮り、意見を伺いたいと考えております。

(進行役)

来年度から移行するというものでよいでしょうか。

(事務局)

国では年内に策定するという事ですので、その後を作成することになります。できれば年度内にお諮りできればと考えておりますが、次年度ということも考えられます。状況については改めて報告いたします。

(進行役)

事務局からの説明について、特に質問・意見等がないようですので次に進ませていただきます。事務局から説明をお願いします。

(2) 第2期総合戦略の数値目標及びKPIの報告、検証について

(事務局)

資料2に基づいて説明

(進行役)

ありがとうございました。事務局から説明がありました。資料2-1については人口の全体の状況、資料2についてはKPI、資料3については個々の目標の達成状況についてかいつまんで説明していただいたところです。以上の内容について、委員の方々から質問・意見等がありましたら自由にお願ひしたいと思ひます。

(A氏)

この時期、コロナ禍ということで、なかなかKPIを計るのも非常に苦しい時期だったと思ひます。ただ、数値を見ますと、明らかに出生人口よりも自然減が増えているという中で、人口減少ということに対しては自然減の率を緩やかにしていく、そのために地域社

会があると思いますし、介護人材もあるのだと考えます。その辺を見ましたら、そこに力を傾注するというような内容は見当たらないと思います。見解をお聞きしたいと思います。

(事務局)

介護人材等の確保につきましては、参考資料の8ページになりますが、「街の産業を支える人材としての全ての人が活躍できる環境づくり」のところで、介護人材確保支援事業、障害者就労推進事業などを実施することとしておりました。ところが令和3年度につきましては、コロナの影響により対象者の方々を集めて実施できなかったところですが、こうした人材確保や人材育成の施策を進めることで、市としては対応していきたいと考えております。

(A氏)

現実としては、介護ということをクローズアップさせていただければ、介護人材は枯渇しております。疲弊しています。どんどん介護をしている人員が不足をしているし、なり手もないという環境の中で、報酬を上げるということについても、国の報酬ですので、なかなか動きが悪いという環境の中で、地域として考える必要が早急にあると考えます。その辺も踏まえて次年度以降というか、御検討いただきたいと思います。

(事務局)

ただいまの意見につきましては、これからの事業の構築につきまして担当課と協議し、検討を進めてまいりたいと思います。

(B氏)

基本目標1-イ「結婚を希望する人への情報提供の充実」というところですが、地方創生というところでお役に立てないかということで結婚相談所を作りました。しっかりお見合いをして縁結び、結婚まで繋がればよいかというところをうまく結び付けていければということですが、今現状としましては、結婚数が延べで29組、出産が6人、なおかつ、住宅ローンに結び付いたのが4件あるというところです。「縁結びネットワーク」を作った意義的なものは良いかなと思うのですが、イベントを行った実績だけで終わっている。カップルができました、商品もらいました、というところで終わっていて、果たしてそれがうまく結婚まで結び付いているのだろうか、やりましたという実績だけになってしまう。費用対効果からいうと、きちっとしたフォローアップをすることによって、うまくそういった中で、実のあるお金の使い方になると思います。そういった点を検討していただければこのHP閲覧数が目標6万で実績1万6千というのはあまりにもちょっと少なすぎるかなと思います。我々のところにも、ネットワークのホームページをみてやっ

てきたという方はいまだかつていない。道新さんの広告、ライナー見て来ましたというところ。ホームページの活用がうまく生きていないというところも一つ問題があるのかなと思います。そういったところで工夫し、ネットワークの生かし方を考えていき、人口の増加の取組につなげていく一つになればよいかなと思います。

(事務局)

ホームページの活用の仕方が具体的にア・エール（結婚相談所）の効果になかなかつなげていないということです。御意見を担当課と共有しながら効果的な事業構築につなげさせていただければと思います。

(進行役)

実際にこのフォローアップというか、結婚まで結び付いた件数とかは把握できていないのでしょうか。

(B氏)

できていないと思います。

(進行役)

それは、やる術がないのでしょうか、やっていないのでしょうか。

(B氏)

やろうと思ったらできる話であって、カップルになりました、その後どうなりましたかと連絡すれば、実は、あれはあの時だけでした、と笑い話にするのが果たして良いのかという話もあるのですが、もう少しどうやると、この後うまく結婚まで結び付けていけるかということを考える必要があると思います。

(事務局)

どういったイベントをやって、それがどう結び付いたかというデータがあれば、これからどういった形の取組が良いのかということも整理できると思います。

御意見は十分参考にさせていただきたいと思います。

(進行役)

今の件については、今後の検討課題としていただければと思います。他に何か御意見や御質問はございますか。

(C氏)

今回の懇談会には間に合わないのかもしれないのですけれども、結婚を希望する人への情報提供ですとか、子どもたちへの教育環境の充実ですとかという話をするには、女性の参加者が少ない。今年ちょうど、買物公園50周年のイベントや市制施行100周年のヒアリングに出たときにも、もっと女性を呼んでくださいと必ず言っています。既に子どもを持って、ちょっと落ち着いた人間が出て話してもあまり参考にならないのかなと常々思っていて、さっきのその婚活のサポートにしてもそうですが、こういうところに学生や若手の起業家、若手の女性、男性をもっと呼んだら、ここが一種の明るい未来を語ると素晴らしいと思います。次に公募するときは、市民じゃなくても、旭川市に働きに来ている方とか、企業とかに声をかけるとか、例えば、ALTの先生とか海外の方とか、農家とか、お店の奥様で、ロシア人の奥様とか、オーストラリアの奥様で若い方とかがいると思うので、そういう方の話を聴いて、海外から移住してもらうようなヒントを得るとか、建設的な意見がいっぱい出てくるのかなと思います。

(事務局)

皆さん、名刺交換をされていましたが、この場合は会議であって同時に出会いの場であると改めて実感したところです。市長の公約の中で未来会議というのがあって、農業、若者、福祉、子育てなどいろんな分野があって、それぞれの会議において、それぞれ若い方が入って建設的な意見がありますし、農業分野と子育て分野がお互いに意見交換をしたり、幅広い分野で接点を持つのが良いなと感じましたし、若い人の意見は建設的な意見が多いというのは、正直実感しているところでございます。今回、参加者17名中3名が女性だということも、バランス的には悪いなというのが実態でございますので、例えば、この先、さきほど事務局が話したように新しい方針の中で骨子とか素案を作るときに、オブザーバーとして学生の皆さんが参加できないかということを検討したいと思います。

(進行役)

特にこの会議に学生が参加できないとかはありますか。

(事務局)

ありません。皆様の御承知をいただければ、オブザーバーとして参加していただき、意見をもらうこともよいかと考えます。

(進行役)

今後、検討課題というか、実現していただきたい課題ですので、ぜひお声をいただければと思います。

(事務局)

さきほど話のあった介護人材につきまして、コロナの中で非常に人材確保が厳しいと実感しているところであり、福祉保険部とも話しながら、今後の介護人材の確保が厳しいというのは我々も分かっていますので、幅広く福祉保険部と協議し、将来に向けてしっかりと検討したいと思いますし、コロナ対策の中でもかなり重要な部分として介護人材の育成ですとか確保とかを考えておりますので、その辺は補足させていただきたいと思えます。

(進行役)

議題の2に戻りますが、時間の関係もありますので、あとお一方くらいにしたいと思います。

(D氏)

質問が一つと意見が一つあります。資料2-1の4ページで観光宿泊延数、分かればよいですが、コロナの影響で激減しているのは分かりますが、コロナの間にもかかわらず、ホテルの件数が増えていると思います。確か4、5年前の1日当たりの旭川の宿泊数というのは4000弱だったと記憶しているのですが、今現在どこまで増えているのかというのが分かればお聞かせいただきたいというのが1点。もう1点が意見として、資料2-3の4ページ、基本目標3のイの部分、先端技術や地域の強みを活用し未来を見据えた産業の創出の中でのKPI、指標として青果物販売額、これを見るのももちろん良いと思うのですが、指標としてもっと違う指標を検討する必要があるかと感じます。ここ検討いただけたらと思います。意見です。

(事務局)

ありがとうございます。1点目の宿泊室数は、約6000であったと思います。昨年度も新規開業と廃業したホテルがありますが差し引きでも増加となっているものと思えます。

稼働率はかなり戻っていて、直近7月の上旬は確か、8割5分くらいホテルの稼働率が戻っていると記憶しております。

2点目の青果物販売額の部分は御意見も踏まえて、計画の改定時に検討させていただきたいと思えます。

(3) 地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告、検証について

(進行役)

それでは、議題2については以上にしたいと思います。

それでは次に議題3 地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告、検証についてに移ります。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料3に基づいて説明

(進行役)

ありがとうございました。ただいま事務局より説明のありました、地方創生推進交付金関連事業5事業、それから企業版ふるさと納税活用事業としてICTパーク、それぞれについてKPI指標の達成状況、それから事業評価について、これは全て有効であったという評価ですが、これらについて委員の方から御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

私の方から1点よいでしょうか。トライアルワーク事業についてが、コロナがあるにせよ、今期は数値が厳しいですね。これが有効であったと評価することについてご説明いただきたい。

(事務局)

トライアルワーク事業による就職数は、令和6年3月までの目標値が350人としていた中で最新値が25人、就労体験者数につきましても目標値が880人のところ、最新値が63人となっているのでかなり厳しい数値でございます。一方で、本事業は北海道と連携して行っている事業でありますけれども、市内中心部にトライアルワークセンターを置き、旭川市の市内企業の事業者と若年層、女性、障害者、シニア世代の求職者とのマッチングを行う事業は事業として特徴的なものであると捉えております。目標値に対するこの達成状況についてはかなり厳しい状況にあるということは、もちろん認識しているところでございますので、まずはトライアルワークセンターの認知度の向上、実際に御来場いただいたにもかかわらずマッチングに繋がらなかったもののデータの集積等、これまで2年間の事業実績を踏まえ対策を考えながら今後実施をしていきたいというところで整理をさせていただいたところです。

(進行役)

令和6年までには達成できるのでしょうか。

(事務局)

コロナ禍であることも踏まえると現状では厳しいというのが正直なところでございます。

(E氏)

今の進行役から話があった旭川圏トライアルワーク連携支援事業の主な事業実績②のところですが、「市内の高校生（進学希望）を対象にインターシップを行った」とありますが、進学希望の学生に絞って行っているのでしょうか、絞ったのであれば、それはどういう意図で行ったのでしょうか。

通常であれば、地元で働きたいという高校生を旭川にとどめようというのが、人口流出を防ぐためというのはわかりやすいと思うのですが、あえて進学希望というところにターゲットを置いているのはなぜかなと思ひまして。

(B氏)

結局、大学に行く比率が高いということで、地元の企業を知った上で、大学に行って地元に戻って就職してもらう。企業の内容を高校時代に深く知ろうと、そうすれば戻ってくる確率も高くなるだろうと、そういう内容の事業であると思ひます。

(E氏)

そうであれば、その時点ではなく、もう1回、大学4年次に、思い出してもらえような取組もあればよいのかなと思ひます。おそらく、札幌で過ごす大学生が多いと思ひますが、札幌の方が人口も多いし、企業も多いとなると、そのまま、札幌に、もちろん大学の友達はそのまま続いていきますから、じゃあ札幌圏内で就職ということになりがちだと思ひます。もう1回思い出してもらう取組があってもよいのかなと考えました。

(B氏)

事務局からの回答がないので、トライアルワークセンター自体、委託されて旭川信用金庫が運営している関係で回答します。比較することはありだと思ひます。地元で就職するときに、僕の場合、旭川市役所と旭川信金しか知らなかった。旭川信金も前の年に知ったという感じでしかなかった。それは、なぜかというところ他の企業は知る機会がなかったからです。高校時代に少しでも知っていれば、市内企業へ就職する可能性は増えてきます。また、中小企業家同友会や旭川大学の江口先生が中心となり合同企業説明会も実施しているといった流れもあります。そういったところでまた地元に戻ってこようと希望する学生に対応できる体制を整える場を作っています。高校の時に企業を知ることで市内企業に就職する方が増えてきたらいいという事業です。

(事務局)

地方創生推進交付金は、地域で取り組む先進的な取組に対して交付されるものであるため、通常の合同企業説明会という形ですと、どこでも行っている取組となりますので、特徴的な取組を掲載しているものです。

(進行役)

わかりました。それでは他に御意見があればお願いします。

(F氏)

2年前の総合戦略懇談会に参加させていただいた時に、カムイミンタラ DMO の話がけっこう出たのを覚えています。2020年であったので、まだコロナがだいぶ動いてきていた時期で、DMO の在り方という、予算がこんなに必要なのかという意見が確か出ておりました。去年、私もイベントの打合せなどで事務局に行きましたが、将来的にインバウンドが戻ってきたときのためにこのようなことをやりたいと、かなり長く話させていただきましたが、結局その後は、DMO から話が来なくて立ち消えになりました。実際、その話が1年前にあって、事務局を見せていただいたらそのときにものすごい数の新品のマウンテンバイクが飾ってあって、僕としては、インバウンドの方若しくは北海道旭川に来ていただいた方に使っていただこうと思って購入したものだと思います。それはわかるのですが、置いてある場所がオクノの事務所の前にすごいきれいに並べてあるんですね。実際、旭川駅のところで貸し出している自転車コーナーには2台くらい置いてあるんです。果たしてそうなったときに、今後インバウンドが戻ってきたときに持ってくる、今ちょうど準備段階だと思うのですが、昔みたいに果たして旭川に人が戻ってくるというのはわからない。もし一般的な企業だとしたら、その準備段階でのお金の使い方とか計画段階で正しいのかなと思って1年経ちました。実際少しずつ外国人や普通の方が戻ってきていますけれども、これでまた昔の段階に戻れなかったとして、実際に準備はしていたということだけだと厳しい。もっと違うところに観光ビジネスとして使えた方がまだ使い途があるのかなというのが、僕の中では正直思いました。

(事務局)

観光については、コロナ禍のときにどのような取組をしていたのかというのは、回復してきたときに問われるのではないかということはコロナのときから言ってきた話で、プロモーションやイベントができない中で、Webなどで魅力をどんどん発信するということは、DMO 以外でも観光協会や観光課も取り組んできたところです。日本の方にもマウンテンバイクをどんどん使ってもらってPRすることはできたのではと思うところではあります。一部ではちゃんとやってきた部分もあるとは思いますが、十分見えてきてなかったのは反省点であります。まだこれから外国人客が回復するまでにしばらくかかるので、PRの在り方を更に検討するよう DMO に伝えていきたいと思っております。

(進行役)

マウンテンバイクの使用率を指標に織り込むことはできないのでしょうか。

(事務局)

できると思います。

(進行役)

やってしまうと厳しい数値が出てくるとは思いますが、厳しい数値が出るものを指標に織り込むと、以降に改善していったりする。ぜひそういったことを考えていただきたいと思います。

(A氏)

確認ですが、No.3の「まちを支える産業人材の育成・確保を核とした選ばれるまちづくりプロジェクト」について、令和3年度までに終了ということですか。

(事務局)

こちらは地方創生推進交付金という国の財政支援を受けて実施する事業としては、令和3年度で終了いたしました。市の事業としては継続しております。

(A氏)

参考資料とありますが、これは令和3年度に継続していたということなのか、令和4年度以降も継続しているということなのか、教えてください。右肩に継続とあるのはどういう継続でしょうか。

(事務局)

令和2年度から継続していることを意味しております。

(A氏)

そうすると、我々は令和4年度のものは見れていないということでしょうか。

(事務局)

令和4年度のは、令和3年度の第2回の懇談会で御提出させていただいたものですが、本日は御用意していないところです。

(A氏)

あった方がわかりやすいですね。

(事務局)

改めて、郵送又はメールで参加者の皆様にお送りさせていただきます。

(A氏)

本来それについても我々は議論すべきものでしたよね。

(進行役)

なるべく早く御対応いただければと思います。

(G氏)

旭川圏トライアルワーク事業の今後の方針のところですが、「都市部の求職者と旭川圏トライアルワーク事業の登録企業とのUIJマッチングを行う機能を追加するとともに、ターゲットを首都圏から都市部に見直し、より広域に展開する」と書かれています。さきほどのオンライン移住相談のときも150件以上も増えていたり、他の識者の皆さんもおっしゃっていましたが、私もUIJターン、移住というところでは、私もこのエリアに可能性を感じています。その増えたデータについてアンケートをとり、より広域に展開するというのは素晴らしいですが、多分デジタルを使うのかなと思っています。それならば、増えた人材のエリアといった、マーケティング分析はちゃんとされているのでしょうか。

(事務局)

移住相談会など東京に行って進めて実績があります。実際に興味を持っていただいて、問合せが2、3回と続いている方もいらっしゃいます。相談会にいらっしゃった方が実際に移住されたかどうかということは数値として正確には把握していないところです。

どういう相談会が効果的であったか、今日、資料を持ち合わせておりませんが、御指摘の部分は戦略を出すときに参考となりますので、関係部と話して検討していきます。

(G氏)

私は転勤族でありまして生まれは北海道小樽市ですけれど、今もスキーを続けています。このエリアの雪質の素晴らしさは特出すべきものと思っています。逆に温暖化でニセコ辺りが積雪量は多いが、雪質が落ちているところもあります。首都圏ではなくて、例えば長野の方のそういう嗜好を持っている方々がこっちの方でとか、調べればデータが出てくると思います。そういったところにデジタルを投下していくと面白いのではないかと思います。発言させていただきました。

(事務局)

参考にさせていただきたいと思います。

(H氏)

今朝のNHKで見ましたが、群馬のみなかみ町で移住促進課という課を作り、オンライン

で街の魅力を語っているというか、いろんな地元の方のお話を聞いたりしているだけなのですが、視聴される方が増え、移住が増えてきているとのこと。リモート勤務が増え、移住戦国時代と言われ、どのまちも移住に力を入れていますので、旭川市も総合政策部で行うのかなと思いましたが、移住だけを行う課があってもよいと思いました。私は首都圏を行ったり来たりしていましたが、コロナになってそれができなくなり、隔月でオンライン飲み会を10人くらいでやっています。ほとんどのメンバーが首都圏で、私だけが旭川、一人が新潟です。春夏秋冬、それぞれの場所で参加するが、今夏の関東はすごい暑かったらしく、自分は旭川が出身で旭川が好きですから、魅力を語っていたのですが、先日友人が移住をしたいと言ってきましたので、トライアルセンターを紹介しようと思っています。友人達と話していて、旭川には自然など魅力があるのだなと実感しました。ただ、その友人は居住希望エリアに旭川は入っておらず、東川か富良野かと言っています。Webを使って地域の魅力を発信していけば、移住する人が増えてくると思います。私たちが気付いていない魅力がすごくあると思うので、旭川市を中心にした形で活動していけば、広がるのかなと思います。

(進行役)

移住に対する取組は、市はどのようなものがあるのでしょうか。

(事務局)

移住の専門部署という話がありましたが、市では地域振興課というところが、まちづくり関係全般の中で取組をしております。東京で相談会を実施したり、コロナ禍ではオンラインで名古屋や大阪でも行っています。実際に興味を持たれて、住まれた方もいらっしゃいました。また、移住雑誌の中でも、災害が少ない、医療機関が整っている、公共交通機関も整っている、とても住みやすい環境であることを我々なりに最大限PRしているのですが、釧路はワーケーションなど特色を出しているところからすると、我々は若干PR不足かもしれませんが、地域振興課でそういった取組はしております。実際に地域おこし協力隊となって、旭川に来てもらって活躍されている方もいらっしゃいますし、その辺はお話のとおり、より戦略的に旭川のPRをして、他のまちに負けられないようにしてまいりたいと思っております。新聞で旭川で3,393人減、ワースト2位との人口減少の話も出ているので、それは我々も危機的状況であると思っていますので、より一層総合政策部も含めて取り組んでいきますので御指導いただきたいと思えます。

(進行役)

移住が増えているけど社会減になっている。北海道はみんなそう。何かミスマッチがあるのか、根本な課題があって、せっかく移住しても引きとどめられないという、もちろん関係はないにしてもそういうことはあるのか、どうなのでしょう。

(事務局)

22, 23歳で一時減少し、65歳で戻ってくるというのが旭川の特徴です。きっと住みやすいまちなので戻ってくるということと考えられます。何がないのかというと、働き場所とかであると思うので、今、お話のあった件は全て一つに繋がってくると思います。ちゃんと働く環境があって、子育てしやすい場所があって、元々持っている旭川の素材をPRすることで、他のまちに負けないような取組になってくるのかなと思います。

(I氏)

私は移住組で、28年前に来ました。旭川はたくさんいいところがあるのですが、どうしても焦点を絞り切れないのか、非常にPR不足と感じます。私は大阪から来たのですが、大阪にいますと旭川のことは全くよく分からない、近郊の富良野とか、美瑛とかはイメージとしてあるのですが、旭川って富良野、美瑛の近くなのだという認識しかありません。やはりPR不足、受入体制不足ということは否めないと思います。

もう1点、戻りますが、基本目標3-イ「先端技術や地域の強みを活用し未来を見据えた産業の創出」の「青果物販売額」の評価が必要かどうかという話がありました。農家の立場から見させていただきますと、「青果物販売額」はこの文章に記載されておりますとおり、急激に減っております。今後おそらく、目標値の達成はほぼ不可能です。ただ、中身を見ますと、この減少している数値でとどめているのは、新規就農者、新規参入者です。この数字を見ると、新しい人間がまた増えているなのというのも見方の一つの評価として出てきます。

次の指標で「担い手農家への農地集積率」があり、数値が増えていますが、この原因はほとんど農家の跡取り息子の仕事が大半です。今、国の事業で基盤整備も進めていて、これからどんどん集約が進んでいきます。スマート農業もこれからどんどん導入されると、実は人口増ということには、あまりそのことは貢献しないのかなと思います。逆に青果物の販売額をみると、伸びると逆に新しい人間が増えているのかなということが分かる数値であります。この指標が必要かどうかというのは僕も判断できる状況にはないですけども、そういう意味合いもあるということをお理解いただければと思います。

(事務局)

農業人口を増やすというより先にまずは農業としてきちんと今の生産者の方が所得を出せて続けていくことが大事であると思います。指標もそういった視点でも検討していきたいと思います。

(進行役)

オブザーバーの方から何かありますでしょうか。

(J氏)

今話題となっていた指標の関係も含めて、資料1に書かれています、右端にある「デジタル田園都市国家構想」があります。さきほど農業の指標でなかなか出てこないというのがあって、農家の人口は減っていますけれど、大規模な経営が、大きな機械で収益を上げていくとかドローンを使ってスマート農業、そういう視点が出てきます。これからデジタル化が進む中では、そういった現実的な視点、意見を基にして、指標を検討していただければ良いのではないかと思います。

皆様方が評価をする上で必要な指標について練っていただければと思います。

(進行役)

委員の皆様から、全体を通して何かありますでしょうか。

それでは、進行を司会に戻します。

(事務局)

皆様には限られた時間にもかかわらず、有益な御意見をいただき、ありがとうございます。いただいた御意見に関しましては、議事録にまとめまして、後日、皆様に送付させていただきます。御確認いただいた上でホームページ上に公表させていただきます。

今回の懇談会の御意見を参考にいたしまして、各種評価表の作成ですとか、これから来年度の予算編成に入って行くわけですが、事業構築に活かしてまいります。

以上をもちまして、令和4年度第1回の旭川市総合戦略検討懇談会を終了させていただきます。皆様には、今後におきましても、総合戦略や地方創生関連施策に関する御意見を賜りたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

3. 閉会